

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年5月8日 (2008.5.8)

【公表番号】特表2008-505901 (P2008-505901A)

【公表日】平成20年2月28日 (2008.2.28)

【年通号数】公開・登録公報2008-008

【出願番号】特願2007-520384 (P2007-520384)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/353 (2006.01)

A 6 1 K 36/18 (2006.01)

A 6 1 K 36/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/14 (2006.01)

A 6 1 K 9/12 (2006.01)

A 6 1 L 2/16 (2006.01)

A 6 1 L 2/18 (2006.01)

A 6 1 L 2/22 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/353

A 6 1 K 35/78 C

A 6 1 K 35/78 X

A 6 1 P 31/14

A 6 1 K 9/14

A 6 1 K 9/12

A 6 1 L 2/16 Z

A 6 1 L 2/18

A 6 1 L 2/22

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月24日 (2008.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カテキン調製物を含む組成物とケージまたは畜舎の表面を接触させる工程を含む、該表面上の感染性 S A R S ウイルスの数を減少させる方法であって、カテキン調製物が、少なくとも 2 l o g 1 0 単位、感染性 S A R S ウイルスの数を減少させるのに有効な濃度で存在する方法。

【請求項 2】

カテキン調製物を含む組成物と動物の表面を接触させる工程を含む、該表面上の感染性 S A R S ウイルスの数を減少させる方法であって、カテキン調製物が、少なくとも 2 l o g 1 0 単位、感染性 S A R S ウイルスの数を減少させるのに有効な濃度で存在する方法。

【請求項 3】

カテキン調製物が、エステル化カテキンおよびガロイルカテキンのうちの少なくとも一つを主に含む、請求項 2に記載の方法。

【請求項 4】

カテキン調製物が、緑茶抽出物、緑茶抽出物粉末、および緑茶濃縮物からなる群より選択される成分を含む、請求項 2に記載の方法。

【請求項 5】

表面を接触させる工程が、カテキン調製物を表面に噴霧することを含む、請求項 2に記載の方法。

【請求項 6】

カテキン調製物が、少なくとも  $3.5 \log 10$  単位、感染性 S A R S ウイルスの数を減少させるのに有効な濃度で存在する、請求項 2に記載の方法。

【請求項 7】

緑茶由来の近天然のカテキン調製物を含む組成物とウイルス担体を接触させることを含む、エキスピボの S A R S ウイルスの蔓延を減少させる方法であって、カテキン調製物が、少なくとも  $2 \log 10$  単位、S A R S を不活化する濃度で存在する方法であって、該ウイルス担体が下記の群より選ばれる方法；

( 1 ) 動物、

( 2 ) 寝具表面、

( 3 ) 衣服表面、及び

( 4 ) 医療機器表面。

【請求項 8】

近天然のカテキン調製物が、緑茶抽出物、緑茶抽出物粉末、および緑茶濃縮物からなる群より選択される、請求項 7に記載の方法。

【請求項 9】

カテキン調製物が、少なくとも  $3.5 \log 10$  単位、S A R S を不活化する濃度で存在する、請求項 8に記載の方法。

【請求項 10】

ウイルス担体が動物であり、および担体を接触させる工程が、カテキン調製物を動物に噴霧することを含む、請求項 7に記載の方法。

【請求項 11】

製剤が表面に適用された場合に、少なくとも  $2 \log 10$  単位、S A R S を不活化するのに有効な濃度でカテキンを含む液体または粉末の製剤、および製剤を表面に適用し、これにより表面上の感染性 S A R S ウイルスの数を減少させるための説明書を含むキット。

【請求項 12】

製剤が、粉末製剤である、請求項 11に記載のキット。

【請求項 13】

カテキンが、カテキン混合物の一部として製剤中に存在する、請求項 11に記載のキット。

【請求項 14】

カテキン混合物が、緑茶抽出物、緑茶抽出物粉末、および緑茶濃縮物からなる群より選択される、請求項 13に記載のキット。

【請求項 15】

カテキンが、少なくとも  $3.5 \log 10$  単位、S A R S を不活化するのに有効な濃度で存在する、請求項 11に記載のキット。